



ココロさんの ひとりごと

2019年2月 No.4

甘えること・頼ること

Aさんは、お母さんと小さい弟との3人暮らしの中学生です。最初のカウンセリングの時に、お母さんは、しっかり者のAさんが学校を休み続けることに納得できず、「この子は甘えていると思います」とおっしゃっていました。

不登校になった子どもが「甘えている」ように感じるのは、何もAさんのお母さんだけではありません。それは、困難を乗り越えて自信をつけてほしいという、親が子どもに期待する気持ちがあるからこそ、そうできない子どもを受け入れられない気持ちの表れと言えるでしょう。親が、子どもが登校しないことを認めて良いのか迷うのは、自然なことです。

一方、カウンセラーとしては、「この子は、今まで誰かに甘えたり頼ったりしてきただろうか」と思います。Aさんも、「姉としてしっかりしなければ」「忙しいお母さんを助けなければ」と思い、弱音を吐かずに頑張っていました。

不登校になったいきさつは子どもによって様々ですが、「つらいと感じていても何がどうつらいのかわからなくて、一人で抱え込んでいるうちに元気がなくなって、エネルギーを使い果たしてしまう」というプロセスが多いように思います。つらいと感じた時、誰かに甘えたり頼ったりしていたら、そのつらさを切り抜けることができたのではないかと思います。

『あまえ』は、人の成長にとってなくてはならないもので、うまく甘えさせてもらった経験が人を頼る経験につながり、人は人に頼り頼られながら成長していくのです。今回のケースでは、学校を休んでいることを「困難から逃げている」と捉えていましたが、そうではなく、「今まで甘えたり頼ったりしてこなかったから、つらい状況にどう対処していいのかわからずに困っているんだ」と捉え、子どもの気持ちをまずは受けとめることが大切だと考えます。しっかり受けとめた後に、エネルギーの回復を図りつつ、次の一步を踏み出せるよう子どもの気持ちや行動を支えていくのです。

私たちは、その、受けとめたり支えたりといったお手伝いをしていきたいと考えています。どうぞ親御さんも誰かに頼ってください。そして、皆さんが頼りたいと思う、その「誰か」の中に私たちが含まれていたら、大変うれしく思います。

